

2019年4月、熊本大学文学部コミュニケーション情報学科に 現代文化資源学コースが誕生します

文化資源を再編集し、
新たな価値を創造できる人材に。



現代文化資源学とは？

文化遺産という言葉があります。歴史的な文化財で、現在に伝わるもの、次の時代に継承されていく文化です。歴史的な建物、美術品、文献、音楽・芸能などがそれにあたります。それに対して、「現代文化資源学」というのは、「今ある有形・無形の文化」を対象にする新しい学問です。そこでは、マンガ、ポップミュージック、演劇、方言といった現代の文化を対象とします。収集した現代の文化を新たな価値を創造する文化資源として分析整理し、その研究成果に基づいて国内外に発信すること、次世代のために継承することを学ぶ学問です。



身につけることのできる知識とスキル

現代文化のアーカイブ構築

地域固有の言語・文化から、マンガ・ポップミュージック・演劇などのメディア芸術・ポップカルチャーまで、現代のさまざまな文化資源を収集・分析・整理する方法を学びます。フィールドワークをもとに、失われる前にアーカイブ化しておくべき有形・無形の文化資源を記録保存する方法を身につけます。

現代文化資源の価値創造・グローバル発信

文化資源のもつ多面的な価値を理解し、発信できるメディア運用能力を養成します。国内外のさまざまな場面において日本文化の新たな価値を創造し、地域振興やまちづくりなどの現場でその積極的な活用法を企画・立案し実践できる「地域グローバル人材」の育成を目指します。

【開講予定科目例】

| 科目名 | 説明 |
|-------------|--|
| 現代文化資源学入門 | デジタルな形での資料保存(アーカイブ化)の現状とその可能性について学びます。 |
| 現代文化資源学実習 A | 地域の文化のさまざまな側面についてフィールドワークによって学びます。 |
| 現代文化資源学実習 B | 音声言語の資料を収集して分析する方法を学びます。 |
| 言語情報技術演習 | 文字データや音声・映像のような時系列データをデジタルな形で活用する方法を学びます。 |
| 現代芸術文化論 | サブカルチャーやポップカルチャーの歩みや、今後の社会で果たしていく役割について考えます。 |
| 無形文化資源論 | 文化資源や観光資源としての芸能・祭事(ポップミュージック、ダンス、古典芸能を含む)について考えます。 |
| 映像文化資源論 | 映像記録や映像芸術がもつ文化資源としての役割について考えます。 |

Q&A

Q1

現代文化資源学コースがコミュニケーション情報学科に設置されるのはなぜですか？

コミュニケーション情報学科は、実践的な英語コミュニケーション能力と情報発信するメディア運用能力の育成に特色と実績のある学科です。現代文化資源学コースを選ぶときでも、1年次や2年次では、コミュニケーション情報学コースと共通する科目を履修でき、現代文化資源学コースで学ぶことの基礎となり、卒業後も役立つ科目を履修できるからです。

Q2

現代文化資源学とコミュニケーション情報学のコース決定は何年生ですのですか？

1年生の終わりにコースを決定し、2年生からどちらかのコースで学びます。

Q3

現代文化資源学コースに進んで、卒論執筆に向けた領域の決定は何年生ですのですか？

2年生の終わりです。

Q4

どのような受験対策をすればよいですか？

熊本大学文学部に合格する学力をつけるために、高校でしっかり学ぶことにつきます。入試は、大学入試を受験する個別試験(前期日程および後期日程)、アドミッション・オフィス入試(グローバルリーダーコース)、そして推薦入試があります。それぞれ試験の内容が異なりますので、どれで受験するか十分検討して決めてください。

Q5

卒業後はどんな就職先が期待できますか？

マンガやポップカルチャーといった現代の日本文化が海外でも高く評価される今日、現代文化資源学の知識とスキルを身につけた人材は、美術館や博物館、県庁や市役所の教育委員会などの文化行政に関係する部署などで、今後ますます求められていきます。

また、ユネスコ、また国や地方公共団体の文化観光や「まちづくり」の推進に関わる職場で働くこともできます。